

**令和7年度 第2回生野区区政会議
全体会**

1 開催日時

令和8年1月27日（火） 19時00分～

2 開催場所

生野区役所 6階 大会議室

3 出席者

(区政会議委員) 24名

森口委員、長谷川委員、平島委員、和田委員、長田委員、西村委員、大久保委員、浮田委員、中村（寛）委員、須郷委員、安藤委員、杉浦委員、井筒委員、玉井委員、田村委員、渡辺委員、足立委員、安委員、マヤ委員、中村（一）委員、松崎委員、幸川委員、吉住委員、今井委員

(大阪市会議員) 3名

木下議員、武議員、山田議員

(大阪府議会議員) 1名

角谷議員

(その他関係者) 7名

田中様、多田様、新井様、伊藤様、三木様、船方様、北口様

(生野区役所) 16名

筋原生野区長、大川副区長、宮城企画総務課長、木村地域まちづくり課長、竹中まちづくり推進担当課長、山崎安心まちづくり担当課長、中條地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長、山東教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長、嶋田教育委員会事務局指導部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長、松村保険年金担当課長、横山生活支援担当課長、森岡保健福祉課長、藤原子育て・地域福祉担当課長、武田窓口サービス課長、森区政推進担当課長、金田企画総務課長代理

4 委員に意見を求めた事項

- (1) 議長・副議長の選出について
- (2) 令和8年度生野区の取組(案)における各部会報告
- (3) ジュニア災害リーダー(JDL)との区政に関する意見交換会報告
 - ・会議資料 令和8年度生野区の取組(案)について
 - ・【参考資料1】国家戦略特区(スーパーシティ)資料
(こどもの未来部会配布資料)
 - ・【参考資料2】主なご質問等と区の考え方、対応
(令和7年度 第2回生野区区政会議 各部会)
 - ・【参考資料3】ジュニア災害リーダー(JDL)との区政に関する意見交換会について(報告)

5 会議内容

○森区政推進担当課長

皆さま、大変お待たせいたしました。お時間になりましたので、ただいまから令和7年度第2回生野区区政会議全体会を開催させていただきます。本日はご多用のところ、当会議にご出席いただきありがとうございます。私は事務局の生野区役所企画総務課の森と申します。どうぞよろしく申し上げます。着座にて失礼します。

それでは本日のご出席の委員の皆さまをご紹介させていただきます。委員名簿の順でお名前をお呼びいたしますので、お名前を呼ばれた際にはお手数ですが、ご起立いただきますようお願いいたします。

森口委員でございます。

○森口委員

森口です。よろしく申し上げます。

○森区政推進担当課長

長谷川委員でございます。

○長谷川委員

よろしく申し上げます。

○森区政推進担当課長

平島委員でございます。

○平島委員

こんばんは、よろしく申し上げます。

○森区政推進担当課長

和田委員でございます。

- 和田委員
よろしくお願ひします。
- 森区政推進担当課長
長田委員でございます。
- 長田委員
よろしくお願ひします。
- 森区政推進担当課長
西村委員でございます。
- 西村委員
よろしくお願ひします。
- 森区政推進担当課長
大久保委員でございます。
- 大久保委員
よろしくお願ひします。
- 森区政推進担当課長
浮田委員でございます。
- 浮田委員
よろしくお願ひします。
- 森区政推進担当課長
中村寛子委員でございます。
- 中村（寛）委員
よろしくお願ひします。
- 森区政推進担当課長
須郷委員でございます。
- 須郷委員
須郷です。よろしくお願ひします。
- 森区政推進担当課長
安藤委員でございます。
- 安藤委員
こんばんは、安藤と言ひます。よろしくお願ひします。
- 森区政推進担当課長
杉浦委員でございます。
- 杉浦委員
よろしくお願ひします。
- 森区政推進担当課長
井筒委員でございます。

- 井筒委員
よろしく申し上げます。
- 森区政推進担当課長
玉井委員でございます。
- 玉井委員
玉井です。よろしく申し上げます。
- 森区政推進担当課長
田村委員でございます。
- 田村委員
よろしく申し上げます。
- 森区政推進担当課長
渡辺委員でございます。
- 渡辺委員
渡辺です。よろしく申し上げます。
- 森区政推進担当課長
足立委員でございます。
- 足立委員
よろしく申し上げます。
- 森区政推進担当課長
安委員でございます。
- 安委員
よろしく申し上げます。
- 森区政推進担当課長
マヤ委員でございます。
- マヤ委員
カトリ・マヤです。よろしく申し上げます。
- 森区政推進担当課長
中村一仁委員でございます。
- 中村（一）委員
よろしく申し上げます。
- 森区政推進担当課長
松崎委員でございます。
- 松崎委員
よろしく申し上げます。
- 森区政推進担当課長
幸川委員でございます。

○幸川委員

幸川です。よろしく申し上げます。

○森区政推進担当課長

吉住委員でございます。

○吉住委員

吉住です。よろしく申し上げます。

○森区政推進担当課長

今井委員でございます。

○今井委員

今井です。よろしく申し上げます。

○森区政推進担当課長

なお村岡委員、山平委員につきましては本日ご欠席とお伺いしております。また北山委員は少し遅れておられるようです。

本日の会議は、委員定数 27 名に対しまして 24 名のご出席があり、定数の 2 分の 1 以上の出席にて有効に成立していることをご報告いたします。そして本日の傍聴者はゼロとなっております。

続きまして、条例第 8 部 8 条第 1 項に基づく市会議員の皆さまのご出席について五十音順でご報告いたします。

木下誠議員でございます。

○木下議員

こんばんは、よろしく申し上げます。

○森区政推進担当課長

武直樹議員でございます。

○武議員

こんばんは、よろしく申し上げます。

○森区政推進担当課長

なお、山田正和議員におかれましては、公務のご都合で少し遅れてお越しになられるとのことです。

次に第 2 項に基づきます関係者のご出席についてご報告いたします。府議会議員の角谷庄一様でございます。

○角谷議員

こんばんは、よろしく申し上げます。

○森区政推進担当課長

同じく関係者としまして歴代の議長などを務めていただきました皆さまのご出席について報告いたします。

田中照章様でございます。

- 田中様
こんばんは、田中です。よろしくお願ひします。
- 森区政推進担当課長
多田龍弘様でございます。
- 多田様
よろしくお願ひします。
- 森区政推進担当課長
新井光淑様でございます。
- 新井様
こんばんは、よろしくお願ひします。
- 森区政推進担当課長
伊藤廣美様でございます。
- 伊藤様
こんばんは、よろしくお願ひします。
- 森区政推進担当課長
三木幸男様でございます。
- 三木様
こんばんは、よろしくお願ひします。
- 森区政推進担当課長
船方ひとみ様でございます。
- 船方様
こんばんは、よろしくお願ひします。
- 森区政推進担当課長
北口充宏様でございます。
- 北口様
こんばんは、よろしくお願ひします。
- 森区政推進担当課長
なお区政会議に関する本市の規則によりまして、本日出席された委員の方のお名前、発言内容等は公開されます。事務局において会議録を作成し、後日、区のホームページ等で公開させていただくほか、会議の様子を収録しまして、後日YouTubeにおいて配信し、どなたでも閲覧できるような形にまいりますので、録音や撮影についてご了承のほどよろしくお願ひいたします。
つきましては、会議録を作成する都合上、ご発言の際はマイクを使用させていただき、口元で大きめのお声でご発言いただきますようご協力をお願ひいたします。
また本日の会議では様々なご意見をいただきたいと考えておりますが、ご発

言内容につきましては、お互いを尊重しながら、活発な意見交換ができる場となりますようにご配慮をお願い申し上げます。

本日の全体会では、12月に開催しました各部会でいただきましたご意見等について、共有させていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

それでは本日の資料についてご説明いたします。

「令和7年度第2回生野区区政会議全体会次第」をご覧ください。そちらに本日の会議資料を記載しております。

まず会議資料としまして、事前に送付しております「令和8年度生野区の取組(案)」です。

次に、参考資料1としまして、こどもの未来部会で配付しました「国家戦略特区(スーパーシティ)資料」です。この資料は、急増する外国につながる児童生徒について、民間事業者が主体となり、大阪府、大阪市と連携し国際戦略特区を活用した規制改革の提案内容になります。現在、生野区内で実証実験が行われており、次年度、国より規制改革の判断が出されることとなりますが、この規制改革が実現しますと、急増する外国籍の児童生徒の教育体制の強化が図られることから、生野区としても、次年度も積極的に連携してまいりたいと考えております。

次に、参考資料2として、先に開催し、各部会でいただきました「主なご意見と区の考え方、対応」です。なお、各部会で「区として特にご意見やアドバイスをいただきたいこと」として意見を頂戴しました。各部会の最初のところに枠囲みで記載しております。

続きまして、参考資料3「ジュニア災害リーダー(JDL)との区政に関する意見交換会について」です。

最後に参考資料として、くらしの安全・安心部会でご意見を頂戴しましたけれども、4月からの自転車の違反に青切符が導入されることについてのチラシを配付させていただいております。一つが大阪府作成のチラシ、もう一つが広報いくの2月号に掲載予定の記事となっております。各地域などでご周知いただければ幸いです。

以上、資料の過不足はございませんでしょうか。

それでは会議の開催にあたりまして区長の筋原からご挨拶申し上げます。

○筋原生野区長

皆さま、こんばんは。生野区長の筋原でございます。本日はお仕事やご家庭のご用事で大変お忙しい中、また大変お寒い中、生野区区政会議全体会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

委員の皆さまにおかれましては、先に開催しました各部会にもご出席いただきまして、令和8年度の取組案、また生野区役所として特にご意見、アイデア等

いただきたいテーマにつきまして、貴重なご意見を頂戴したところでございます。本日は各部会の報告をさせていただきます、全体で共有してまいりたいと思います。部会同様、この全体会におきましても、ぜひ忌憚のないご意見をいただきたいと思ひます。

今年の3月で私も生野区長の任期が終了となりますので、今回、区政会議の出席が最後となるわけでございますが、皆さまのご意見を頂戴しまして令和8年度の取組に反映させていただきたいと思ひますので、本日どうぞよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございます。

○森区政推進担当課長

ありがとうございました。

それでは議事に入るにあたりまして、後ほど委員の皆さまにて議長と副議長を選任いただきますが、それまでの間、事務局の方で進行を務めさせていただきます。

それでは議事に入ります。お手元の次第の「議事1の議長・副議長の選出」についてです。区政会議の運営の基本となる事項に関する条例第7条第1項の規定に基づきまして、委員の皆さまの互選により、議長・副議長を選出いただきたいと思っております。それではまずどなたに議長をお願いするかについてどなたかご意見はございませんでしょうか。

○中村（一）委員

よろしいでしょうか。私は前回から継続して区政会議委員をされており、くらしの安全・安心部会の部会長も経験された森口委員を議長に推薦したいと思ひます。

○森区政推進担当課長

ただいま中村委員から、森口委員との声がございますが皆さんご異議はございませんでしょうか。

ありがとうございます。それでは議長は森口委員に決まりましたので、森口委員はお手数ですけれども、議長席へ移動をお願いいたします。

それではここからの議事進行につきましては森口議長をお願いしたいと思います。森口議長よろしくをお願いいたします。

○森口委員

ただいま議長に選任いただきました森口でございます。皆さまどうぞよろしくお願い申し上げます。

それでは早速ですが続きまして、副議長の選任を行ってまいりますが、まず私の方から候補をご指名させていただきたいと思ひます。前回も区政会議の副議長を務められたご経験から、中村寛子委員に継続をお願いしたいと思います。

が、ご異議ございませんでしょうか。

ありがとうございます。それでは副議長は中村寛子委員に決まりましたので、中村寛子委員は副議長席へ移動をお願いいたします。

○中村（寛）委員

ただいま副議長に選任いただきました中村でございます。皆さまどうぞよろしくをお願いいたします。

○森口委員

ありがとうございます。それでは早速議事に入りたいと思いますが、限られた時間で円滑に進めていただけるよう、ここからは学識委員の幸川委員に会議の進行をお願いしたいと思います。幸川委員、よろしくお願いします。

○幸川委員

議長からご指名いただきました幸川です。

それでは会議の次第に沿いまして、「議事2 各部会報告」に入ります。各部会からの報告を先に行いまして、その後に改めて皆さまのご意見をお伺いさせていただきます。最初に私の方から、くらしの安全・安心部会の報告をさせていただきます。

くらしの安全・安心部会は12月10日に行なわれました。意見交換のテーマは、「狭隘道路が多く自転車による事故が多い生野区では、警察と連携し自転車の安全かつ適正な利用について周知・啓発を行っているが、地域でも取り組み可能な自転車マナー向上に向けた方法はないか。」というものでした。生野区は一方通行が多く、信号のない交差点や三叉路も多くあります。また、自転車は区民の足としての大きな役割を果たしています。しかし、自転車のマナーが浸透していないと、委員の皆さまも感じられていたようです。先ほどチラシを配付いただきましたが、この4月1日から高校生を含む16歳以上を対象に、自転車の交通違反で切符を切られると反則金を納める必要がある制度が開始されることも、どのぐらい浸透しているのかというような話も出ておりました。また、そもそもマナー・ルールがどのぐらい浸透しているのかというような話も出ておりました。

地域では、小学校のグラウンドで、トラックの運転席から子どもがどこまで近づくと見えなくなるのか体験してもらったところがあったり、春と秋の交通安全週間に街頭指導されているところのお話もありました。街頭指導では、自転車が信号のない狭くて人通りの多い交差点で飛ばしていたり、信号があっても小さな交差点では無視して通過するなど、ルールやマナーが守れていない様子を見られていました。交通ルールやマナーについては、一般の大人対象の講習の必要性も話題となりました。交通マナーを守っていない人には、ヘルメットを被っていない人も多く、安全の面からも交通ルール・マナーを浸透さ

せることは大変必要で、こちらは行政・警察での広報も十分にさせていただきたいという意見が出ており、例えば、運転免許証の更新時に自動車のことだけでなく、自転車のマナーについてのパンフレットを配布したり、説明したりするのはどうかというお話もありました。

地域でも取り組み可能な方法として、それぞれの委員の方から意見が出ておりました。まず一つ、生野区内のどのような地域でどのような自転車事故が多いのかという情報をいただいて、場所の特性を生かして、事故が起こりにくくする方法を考えるというような意見です。例えば、商店街などでハロウィンのイベントなどを行っていて人がたくさん集まっているときは、自転車の事故はなかなか起こらないので、公共の道路ですが、お店をもう少しせり出させて、人と物とで物理的な障害物を増やすことで自転車は高速で走れなくなり、事故は起こらなくなるのではとのご意見でした。また、二つ目として、eスポーツ等の人気にあやかり、ゲーム感覚で交通ルールやマナーを学べるような交通シミュレーションを取り入れたマナー講習などを行うのはどうかとの意見。三つ目、「私は交通ルールを守ります」などの言葉を書いたステッカーを作成し、自転車マナー講習を受けた人に配布し、マナーを守る意思表示として自転車に貼ってもらうのはどうかとの意見。四つ目、「事故が起こりやすい場所です」などと道路に書いておいたり、交差点手前にでこぼこのブロックを敷いたりして、自然とスピードを緩めなければならないようにするなどとはどうかとの意見。

四つ目については地域だけでできることではないとは思いますが、様々な意見が出てまいりました。自転車のルールやマナー周知は簡単には進まないものですが、一つ一つ少しずつでも行政や警察とともに地域も一緒になって広げていかねばならないという意見が出ておりました。

そしてテーマ以外の意見・質問としては、AI音声認識ツールについて、区役所窓口サービス向上事業で、多言語翻訳のディスプレイを置かれるということだが、ディスプレイが使えない状況ではどのように対応されるのかとの質問がまずありました。また、災害時に各避難所で区役所からの情報を大画面のモニターに飛ばし、英語・韓国語・中国語・ベトナム語など4、5か国に翻訳したものが表示されるようにしてほしいとの意見、そして、マンパワーには限界があるため、いろんな機器や技術で補えるものを取り入れてほしいという意見がありました。

またこれ以外には、交通ルールの説明会について、警察や行政からの説明会などはいつ頃されるのかというような質問もありました。これについての回答は皆さまのお手元にある資料にあるかと思います。

いろんな意見が出て、活発に意見交換ができたと思っております。くらしの安全・安心部会の報告は以上になります。

では続きまして、まちの未来部会からの報告を吉住委員からお願いします。

○吉住委員

皆さま、こんばんは。まちの未来部会の報告をさせていただきます。私たちの部会では、自分たちが自慢したい地域のお店に屋台のような形で出店してもらうようなイベント「バイローカルの日」というものを昨年やっておりましたが、その取組に焦点を当てたものでした。

まず区役所から提示された検討テーマについて簡単に説明しますと、これまでEXPO いくのヒートアッププロジェクトの一環として地域のよき商いを守り育てる取組である「バイローカルの日」という事業を実施してきましたが、来年度以降は、行政主導ではなく、地域住民が主体となって継続していくステージに入ります。そこで資料に記載の通り、この取組をより多くの人に知ってもらい地域一体となって盛り上げていくにはどのようなアイデアがあるのかというテーマで意見交換を行いました。

主に三つの順番で説明をしていきます。成果、運営面の課題、最後に解決のアイデアというような順番で説明します。

まず成果ですが、実際に「バイローカルの日」に携わった委員からは、イベントを通じて「地域にこんな良い店があったんだ」というような再発見があったという報告がなされました。特にイベント後にパンフレットのマップを見て、実際にお店を訪れる人が増えたという、一過性に終わらないような効果が実際にあったという報告がありました。

ただ課題がないわけではなく、大きく三つ意見が出ました。一つ目は、周知の不足です。イベント自体を知らなかった、パンフレットがどこにあるかわからなかったというような声があって、情報の届け方に課題がありました。二つ目は、地域との連携です。準備や運営面でまちづくり協議会さんや町会さんなどと連携した動きがもう少しできると良いのではというような意見がありました。最後、三つ目の課題は世代交代という観点です。地域全体で高齢化が進む中、いかに若い世代に担っていただくか、その熱いエールも含めて、どうバトンを渡していくかということが課題であるというような指摘がありました。これらの課題に対するアイデアというものもセットで意見がなされました。例えば二つありましたが、一つ目は既存に行われている行事とのマッチングです。新しく作っていくことも大事ですが、既にある地域の行事との組み合わせで実施することで、より多くの方を巻き込めて楽しく実現できるのではないかという内容です。二つ目のアイデアとしては、運営組織のスリム化です。これは若手を中心に入ってきてやすいように、できるだけシンプルなもので自分たちが楽しめるコンパクトな運営体制が良いのではという内容です。これは日々地域で活動されている皆さまが、組織の複雑さといいますか、運営面での課題を感じられているかと思い

ますが、それをふまえて、新しいイベントについてはコンパクトなものがいいのではないかというようなご意見でした。

まとめますと、バイローカルの取組を成功させる鍵としては、地域に既にあるパワーそして行事、あと皆さまと良いバランスで掛け合わせる事、そして若手中心に関わる人が迷わないシンプルな仕組みを整えることも必要というような結論だったと思っております。

以上で、簡単ですがご報告を終わります。

○幸川委員

ありがとうございました。続きまして、こどもの未来部会からの報告を今井委員からお願いします。

○今井委員

12月16日にこどもの未来部会がありました。幅広く意見が出ましたが、テーマとも重なるものでした。

テーマは「子育て中の方や子どもたちが地域と繋がるには」というものです。なかなか地域に繋がるのは難しいというところでしたが、出てきた意見をお手元の配付資料の順番通りにお伝えしたいと思います。

まず子どもが少なくなったり、学校は統廃合したり、ひとり親世帯が増えていく中で、子どもに関わるような既存の仕組みがうまく機能しなくなっているのではないかということで、いろいろなアイデアが出ました。区から財政的なサポートが要るのではないかと、外国から来られた方が増えているので通訳の人的サポートが欲しいなどの内容でした。

お手元の配付資料を順番に見ていきますと、最初の委員の方は「はぐくみネット」というものがあまり活動できていないんじゃないかということで、それをもう一度作り直して、地域のおじいちゃん・おばあちゃんも子どもに関われるような形に再編できたらといったご意見でした。次の委員の方からも、学校を統廃合すると子どもたちの顔が見えなくなるという切実な声が聞かれましたが、地域の餅つきなどのイベントをいろいろ形でやっているということでした。また、子供会をするにしてもお金が必要なので、何か財政的なサポートはないだろうかといったご意見ですとか、地域でまちづくりをしながら外国籍の方が来られた時にいろいろな食の文化を通じて交流するようにしているが、日本語がわからない人に対して通訳を派遣してもらいコミュニケーションが活発になったらいいんじゃないかということで、そういった行政のバックアップを期待する声がありました。そして次の方も同じで、かつては地域の子どもが参加するいろいろな大会があったけれども、子どもが減っていく中で子供会が潰れていって、大会もなくなっていると。しかし子供会も二つ三つ合併してチームを再生するとか、仕組みをもう1回変えていくような、予算的、人的なフォローをしていったらど

うかってというような声がありました。また、ひとり親世帯が増えているので、見守りを強化するような事業で、その家庭にコミットメントしていくような連携が必要じゃないかという話もありました。

こどもの未来部会にはお一人、在日コリアンの方がいらっしゃいますが、通訳など外国につながる人のサポートをされている方が今回新しく委員になりました。その方のお話を聞きますと、いろいろなことがわかりまして、学校の通訳も足りない状態で、その委員の方はいろいろなところに通訳に行っていらっしゃるということです。また、外国から来た保護者の方からは、日本語を勉強して日本の文化も知りたいし、日本人とコミュニケーションを取りたい、仲良くしたいと思っているけれど、そういった機会がなかなかないので、ぜひそのような学びができたらしという声も聞こえてきているとのこと。生野区の中でもこのような子どもに対して、日本のことや日本語を、あるいは保護者に対して日本の文化ルールを学べるような機会があったらいいのではというようなこともおっしゃっていました。この方はご自身で日本語教室みたいなことをされているということで、自分たちでいろいろとやれることをやっているということでした。

最後に、学校の統廃合もありまして、子どもたちが遊ぶ場所がなくなってきているので、それを新たに作っていくのも大人の役割ではないかという声もありました。

また、テーマとは関係なく様々な意見が出ましたので簡単にお伝えします。

学校の統廃合で生涯学習ルームが高齢者や子どもにとってちょっと遠くなって、身近な場所になくなっていくというところで、学校跡地の事業者にも柔軟に対応してもらい、そこに生涯学習の場ができるといいんじゃないかというようなご意見がありました。また、学校再編に関して、その後の状況について、区役所は教育委員会と一緒に積極的に調査して行ってほしいといった声があったのと、日本語を勉強したい外国籍の子どもにはいろいろな政策があるが、日本の子どもにもコミュニケーションの取り方などを学んで会話力みたいなものを身につけさせたいので、国籍等に関係なく皆がコミュニケーションについて学べるようなサポートもあってほしいという声もありました。また、こどもの未来部会では、この2年ぐらい、妊産婦のケアについてももう少し丁寧にできないだろうかということが話題に上がっており、新年度から予算が付いたがどのように進められるのかといった質問に対しては、国の政策も後押しして、助産師さんを採用し、手厚くいろいろなケアを全ての妊産婦に対してするというような回答をいただきました。部会の中で議論に上がった内容が、こういった形で繋がっていくのは本当に良いなと思っておりました。私からは以上となります。

○幸川委員

ありがとうございました。ただいま、各部会から報告がありました。これから

委員の皆さんに意見交換をしていただきますが、区政会議は、行政とともに、生野区の課題解決のため、どう取り組むべきかを建設的に考える、そういう趣旨の会議となります。よって、委員の皆さまの個人の感想ではなく、生野区全体を主体的に運営する見方に立って積極的なご発言およびお互いを尊重する発言をお願いできればと思います。なお、ご発言いただく際には挙手の上、お名前を述べていただけますよう、併せてご協力をお願いいたします。

では、ご意見のある委員の方、挙手の方、よろしく願いいたします。

○足立委員

1月18日にいくのパークで IKUNO・多文化ふらっと主催で大阪・生野発！シンポジウム「多文化共生施策とまちづくり～外国人住民との共生社会実現に向けて～」というものがあり、視聴しました。その中で区役所から委託されたアンケート調査の結果報告をされていましたが、すごく今の生野区の現実というか、皆が想像ではなく数字としてはっきりと示されてたいて、そこから見えてくる課題というの、とても現実的なもので私はとても良かったと思っています。

そこで、これはYouTube か何かで配信されると聞いたのですが、そうなのかということの確認と、このシンポジウムについてご存知ない方も結構おられたんじゃないかと思うので、少なくともここにおられる区政会議のメンバーや各地域、地活協、人権などの担当の方々には周知してほしいです。会を開いてもう1回報告というのはなかなか難しいと思いますが、YouTube の配信や、当日の資料等が閲覧できるような形で公開されるのが私はとてもいいのではないかなと思いました。以上です。

○幸川委員

ありがとうございました。1月18日にいくのパークであった多文化共生のシンポジウムですけれども、これについて、周知の願いと、それからYouTubeでの配信についての確認ですね。これはどちらでお聞きしたらよろしいでしょうか。

○森区政推進担当課長

企画総務課の森です。

1月18日のシンポジウムですが、主催が IKUNO・多文化ふらっとさんになっており、YouTube 配信等については今のところ承知しておりませんので、また改めて確認させていただきたいと思います。有用であれば視聴のご案内と区役所内でも周知してまいりたいと思っております。

○幸川委員

ありがとうございます。

これは多文化共生施策とまちづくりのシンポジウムだったと思いますが、今ご意見にもありましたように、もっと広く周知されたらいいなとも思ってお

ります。また周知の仕方なども皆さんで考えて、こういったシンポジウムがあるときは、皆さんに広く周知できるような形がとれたらいいかなと思っております。よろしく願いいたします。

そうしましたら他には何かございますか。

○安委員

公募委員の安といいます。

区長が退任されるということなんで、施策の中で多文化共生に絡むお話をちょっと今日聞きたいと思います。

国家戦略特区のスーパーシティ型で、日本語教育を学校教育以外で、かつ免許を持たない人たちにも広く門戸を開放して日本語教育を外国人に進めていくというのと、グローバルタウンプロジェクトもあわせて、雇用創出とコリアタウンの夜の賑わいという3本柱でこの資料の中にあるんですけど、私がちょっと心配しているのは、一つは地方の方で、外国人を管理していく流れがちょっとあって、まず国家戦略特区の構想が実現できるかどうかということと、もう一つは、グローバルタウンプロジェクトを区長がずっと声を上げて、グローバルタウンの歌も積極的に歌われて推し進めていますが、4月からこの事業が積極的に進められるのか極めて不安を感じているので、そのあたりについてどのように考えておられるのかお聞きしたいと思います。

○筋原生野区長

スーパーシティ特区について、グローバルタウンプロジェクトの中でいうと、今、安委員からお話があったように日本語指導ですね。今は学校で教員免許を持っている教員しか日本語の指導ができないという状態ですが、スーパーシティ特区はDXを活用した規制緩和ですので、学校ではない「いくのパーク」でNPO法人のIKUNO・多文化ふらっとさんのメンバーが、教員免許を持っていませんが学校と同様のプログラムで外国籍の子どもたちに日本語を教えるということ、今年度内閣府の予算がついてスーパーシティ特区の実証実験ということで実際にやっているところです。この実証実験の結果を踏まえて、来年度実装できるかどうかを国の方で判断されるという状況です。

それからもう一つ、働く場ですね。国籍に関係なく働く機会を増やしていく。これについては近鉄鶴橋駅東口の高架下のスペースを使って常設の夜市を作っていくということで、規制緩和項目としては建築確認申請の関係を中心として、今年度中に申請が出される予定と聞いております。これは区役所が出すのではなく、民間がコンソーシアムを組んで内閣府に出すというスキームになっていますので、それが採択されるとまた実証実験から進んでいくという形です。

それから先ほど足立委員からもお話しいただきました、昨年度区役所事業として実施された外国人住民との共生社会実現に向けた実態の調査・分析と提言

を受けまして、そこで整理してまとめた 121 の施策ですね。この 121の中には、区役所ができるものもあれば大阪市の他部局がやるもの、あるいは府や国など他の機関がやるもの、あるいは公民連携で民間と力を合わせてやらないといけないものなどいろいろ混じっていますので、どこまで行きつくかは今のところわかりませんが、ただ 121 の施策を全部進めていこうという姿勢でやっていくと。ですので、今年度中に公民連携の一つの大きなチームを作ってやっていかないとはいけませんので、それを中心として取りまとめるパートナーを公募しているという状況です。

また一方で、今外国籍住民の方が急増されているという状況で、生活ルールやマナーが理解されていないということでの苦情や不安のお声も区役所でよくお聞きするようになっております。外国人の方も日本人の方も多文化共生のことについていろいろと相談事があると思いますので、区役所の方でも多文化共生の総合相談窓口を設けたいと思っています。生野区の場合はもともと高齢化率も高いですし、児童虐待などいろいろな課題の多いまちであるわけですが、外国人住民が増えたことで、例えば他都市のクルド人の方をめぐる状況のような全く違う課題が起こっているというのではなく、今ある課題の上に外国人住民が増えているという、その難しさが乗っていったという状況ですので、多文化共生の相談を受けたときに、区役所の全ての部署で取り扱っていかないといけないということになるので、区役所の全担当に多文化共生の相談員を置きまして、総合相談窓口で受けた相談事を各担当の相談員で連携して区役所全体として取り組んでいくという形で令和 8 年度以降やっていきたいと思っています。

生野区は 4 人に 1 人が外国籍住民であり、外国ルーツの方には帰化されている方もおられるので実際は 3 人に 1 人ぐらいだと思いますが、そのように日本で最も外国人比率の高い都市ですので、国の方もこのスーパーシティ特区の生野区での課題を解決するモデルというのが、日本を先導するモデルになるであろうということで、特区認定に向かって進んでいるということでございますので、これは当然後退することなく進んでいくという形だと思っています。以上です。

○幸川委員

ありがとうございます。

質問に区長の方から丁寧に答えていただけて、大変ありがたいと思っております。ただ、区政会議ではあくまで委員同士で意見交換ができればと思っておりますので、そちらの方も進めていければと思います。

他に何かご意見はないでしょうか。

○森口委員

森口です。よろしく申し上げます。

私の方から2点あります。先ほど区長が言われたように、日本中でこの多文化共生の問題というのは、どの自治体にもあってどこも答えを出せていない。何がベター・ベストなのかわからない状態が、今の日本を取り巻いていると聞きました。特に先ほど言われたように、生野区は最先端をいくため、スーパーシティ特区だとかいろいろなことをされていると思うのですが、2年前の区政会議全体会で提案させていただきコミュニティFMについて、2年間期待しておりましたが、実際にちょっと動くことはありませんでした。新区長にはぜひそのことは引き継いでいただきたいと思います。今、日本語の教育だとか、いろいろな提案やお話が出ましたが、コミュニティFMを使うことで、例えば日本語の勉強でも、NHK ラジオの外国語の講座がありますから、そういったところで講座を開くこともできるし、当然災害時の行政などからの連絡・報告というのでも発信することができるし、様々な活用方法があると思います。私はこのスーパーシティ特区のいわゆるDXの中にコミュニティFMも入ってほしいとずっと思っていました。これが一番のツールだと思っています。大阪市でも、此花区や港区でコミュニティFMをやられてるところがありますので、今言われたように区役所だけではできないと思いますので、区内のそういったことをされる方を含めてチームを作ってください、やはりぜひこれはそのためのコミュニティFMとして、日本で一番目ということで、生野区としてやっていただきたいというのが2年前からの思いです。

それからもう一つは、先ほど交通ルールのところでeスポーツのことを触れているんですが、私たちは地域でいろいろな事業をしますけども比較的アナログなんです。別にアナログを否定するわけでもないし、私どもでも、けん玉教室とかドミノ大会とか、非常にアナログ的な事業をします。でも、例えば万博にも絡んでいましたが、大阪府がやってる0eGG(大阪eスポーツラウンドテーブル)のようにeスポーツを企業とタイアップして広めていくと、生野区から世界選手権に出るような子どもたちを発掘したり、育てていくっていうこともできるし、生野区の学校に来たらこんなことができるとか、そういった魅力の一つになるんじゃないかなと思いますし、ちょっと明るい未来を語っていくにおいても、そういったツールを使ってやっていくっていうところも行政を含めて我々地域でも知恵を出し合いながらやっていただけたらなど、未来のことを思っ

てちょっと発言をさせていただきました。

○幸川委員

ありがとうございます。

今森口委員がお話しされたことについて、他の委員の方で何か意見や、区役所の方が聞いておられますので、さらにこんなことがなど、付け加えた内容はないでしょうか。

○足立委員

足立です。度々すいません。

12月20日にNHKのETV特集で田島南小中一貫校の取組が全国放送で流されたのですが、皆さんあまりご存知なかったということを知りました。私も数日前に友人のSNSを通じて知りました。前に働き方改革で地域行事に学校の先生を動員しないでほしいというような通知があったことはわからないでもないのですが、これだけ統廃合が進んだ中で、やっぱり地域と学校の関係が希薄になっているので、地域行事とかにもうまく絡めてないとはいうものの、学校で何が起きているかということは、特に統合されて学校がなくなった地域の者にとっては非常に関心のあるところだと思います。どんな経過でこの話があまり知られていなかったのかはわかりませんが、すごくいい話で、他のところから「生野区すごいね」「田島南小中一貫校の『生きる教育』ってすごいね」って、全国区でもものすごく評判になって、文科省とかの推薦も受けているっていうのを、地元の区役所も含めて私たち地域で活動している者が知らないというのも、なんかすごくもったいないと思って。もっと応援できるんじゃないかなと思います。

あともう一点、大池小中一貫校についても、御幸森小学校がユネスコスクールだったのが、一旦学校が統廃合するということでユネスコスクールじゃなくなったことがすごく残念でした。学校再編のときの悲願というか、引き続き多文化共生をずっとやってほしいとお願いしていたと思うのですが、今年度ユネスコスクールの認定が下りたというふうに聞いていますが、特に学校からの発信があったようにも思っていないです。私は御幸森小学校がユネスコスクールに認定されたときに学校に関わっていましたので、当時地域や商店街の皆さんに大変喜んでいただいて、応援していただいたこともありますし、生野区だからこそその教題、多文化共生の教題もその新しいユネスコスクールの中にも生かしていけると思うのであれば、また別の形で学校と連携していきたいというふうに思うので、ぜひともその学校で今何が行われてるかっていうのを、もう少し発信してもらえるような形で、地域からもですが、他の地域からも生野全体として取り組んでいくということをぜひやっていただきたいと思います。

○幸川委員

ありがとうございます。

今おっしゃっていただいたように、私が知っている限りでも、生野区内の学校でやっていることでもっと広まったらいいのと思うことはあります。

ですので、特に区内のことを区民の皆さんが知れるような方向で、皆さんに周知していけたらいいかなと思っています。

では、ご意見をいろいろいただきありがとうございました。もう予定の時間が参っております。もしここでどうしてもという方いらっしゃいましたら、あと1

人意見を言うていただければと思いますが、どなたかどうしてもこの場で意見を述べたいという方いらっしゃいますでしょうか。

○西村委員

舍利寺の西村と申します。

先日、東京にちょっと行く用事があったので、日本で初めてできた世田谷のプレーパーク、それから川崎市の有名なプレーパークを見てきました。そこは子どもたちがどろんこ遊びや火を使って遊べるような場であるんですが、子どもの権利条約というのが、どちらにも掲げてありました。

生野区では今、統廃合がどんどん進んで、自由に遊べる場がなかなかなかったり、地域の人たちにとっても学校というのがすごい遠い存在になったりしています。本当に舍利寺なんてどこの学校も遠いので、こっちの子はあっちの学校、こっちの子はあっちの学校とか、そんな状況になっているんですが、子どもの権利条約の中には子どもたちが自由に遊べる場、また発言できる場、子どもたちの最善の利益を優先して考えていかないといけないという、大人のことについても書かれているかと思います。

例えば公園を使ったり、統廃合されていった場所を使ったりとかして生野区にそういうものをもっと作ってほしい。子どもたちが大きくなったときに、「生野で育ってよかったな」とか、「生野ってそういうところやから引っ越しで行こうかな」とか、そんな場にいいなればいいなと改めて感じさせていただきました。

この区政会議において子どもたちの意見がどのように反映されているのかわかっていませんが、例えば開催時間も 17 時や 19 時からではなく、土日の昼間にして子どもたちにも来てもらって話をしてもらおうとか、意見を言ってもらおうとかそういったこともひょっとしたら大事なことなんじゃないかなとか思っています。多文化共生、子どもたちが来ても、いろいろな国の人たちが来ても遠慮なく尊重してもらえながら安心して発言ができる場でこの区政会議はあらねばならないと思いますし、私は子どもの未来部会に所属しておりますので、子どもたちのことを一番優先して考えていきたいなと思っております。以上です。

○幸川委員

ありがとうございました。

いろいろなご意見をありがとうございました。ではお時間も来てまいりますので、意見交換はこれで終了させていただきたいと思います。皆さんありがとうございました。

○森口委員

幸川委員ありがとうございました。それでは続きまして「議事3 ジュニア災害リーダーとの区政に関する意見交換会の報告」について事務局から報告をお

願いたします。

○金田企画総務課長代理

企画総務課の金田と申します。私の方からご説明させていただきます。着座にて失礼いたします。

参考資料3をご覧ください。

開催趣旨としましては、令和5年度区政会議において、若い世代の方々の意見を聞く場が少ないため、対話をし、事業に反映する取組をしてはどうかとの提案があり、区政への関心を持っていただくこと、また、若い世代の方々の自由かつ柔軟な発想や意見を聴取し、施策・事業展開を検討していくことは重要であると考え、区政会議の関連イベントとしまして、令和6年度から実施しております。

今回は災害に対する更なる意識を持っていただくため、生野区内でジュニア災害リーダーとして活躍している生徒を対象に開催いたしました。

3ページをご覧ください。夏休み期間に実施しましたがクラブ活動などもあるため、参加者は残念ながら2名ということになりましたが、ファシリテーターには前回の区政会議委員の学識経験者である川中大輔さんに行っていただき、活発な意見をいただくことができました。

4ページに移りまして、寄せられた声といたしまして、JDLで活動する理由としては、「母が見守り隊をしており、自分も人の役に立つような活動をしたい。」「生野愛から地元に関わることがしたい」などがありました。

5ページに移りまして、「JDLを継続していくにはどうすればよいか」との質問には、活動スケジュールの考慮が必要とのご意見があり、また、参加者を増やすには、活動実績を増やしたり、活動内容がわかるようにもっと知ってもらうことが必要、さらに、対象年齢を広げるという案も出ました。

6ページは寄せられた声を受けて実施したことの報告になります。JDLの研修を実施し、意見交換会の中で提案があった「帽子付きの衣類にタオルを縫い付けた防災頭巾」の作成などを行いました。

7ページに移ります。昨年末の12月に開催されました防災フェスタに参加し、防災講演での活動紹介やブース出展において、ペットボトルを水道の蛇口代わりに利用する方法や、ほどけにくいロープの結び方について、来場者に説明していただきました。

このように意見交換会でいただいたご意見は、更なる区政への取組にも繋がっています。ご協力いただいたジュニア災害リーダーの方々に感謝し、これからも引き続き意見交換会を実施していきたいと考えております。事務局からの説明は以上となります。よろしく願いたします。

○森口委員

ありがとうございました。それでは本日の意見を踏まえまして、関係者として

ご出席いただいております歴代の議長・副議長を務められました皆さまからよければ何か一言お願いできますでしょうか。

田中様より一言お願いします。

○田中様

北鶴橋小学校校下の田中でございます。

北鶴橋小学校も令和9年度からは統廃合する形で、今現在閉校に向けて頑張っておるところですが、先ほどから皆さま方からご意見が出ましたように、残された学校をどうしていくのかと。うちの学校は皆さまの所とは違って、ほとんどが私有地で、大阪市の土地がわずかしかなところなので、もう我々の地域のコミュニティの場が全然なくなるという形になっておりますので、この点はまた皆さまのご意見をいただきながら、どのように進めたらいいかも考えていかなければならないのですが、やっぱり区・市の協力がなければ前へ進めないのも、区の方にもご協力をお願いしているところですので、また皆さまよろしく願いいたします。

○森口委員

ありがとうございます。それでは多田様より一言お願いします。

○多田様

多田です。今、南海トラフ地震が問われています。地域の防災訓練の中で、5年前に策定したことは今現在無意味になってしまっています。じゃあどのように変わってきたか言いますと、地域では外国籍の方が多くなってきていますが、外国籍の方の避難所での対応について一切設けていませんでした。これではいけないんじゃないかということで、外国籍の方の対応の仕方、そしてもう一つ、能登でありましたペットを避難所に入れるのはどうかという話。これはペットを入れることで癒しができるということで、ペットを中に入れることも可能ではないかと。今まではペットは校庭の隅っこへ置いておくというようなことをやっていたのですが、そうではなくて、テントを張ることによって区分けできるので一緒に住むことも可能ではないかと考えています。そして我々の地域で一番に決めていることは、熊本で女性が性被害に遭ったということを受けて、学校の3階以上は女性と子どもオンリーにして男性立ち入り禁止のエリアを設けるということです。それには、地域の女性からものすごく賛成の意見が出ておりました。避難所の開設については、今年の2月15日に一斉災害訓練が生野区でありますので、それに乗じて一緒に避難所の見直しをやろうということをして現在企画しております。その中には、先ほど申し上げた、外国籍の方の問題を入れなければいけないということを考えております。

それと、ちょっと長くなりますけどもう一つ。我々は生徒さんがいないときばかり想定してやっていたのですが、地震はいつ起きるかわかりません。実は学校

の先生のところに行って、「生徒さんが学校にいるときはどうするんですか」とお話しすると、校長と教頭先生は「地域の方が乗り込んでくれるんですよ。」とおっしゃったんです。我々は「えー！」って言って、「先生、それは違いますよ。生徒さんがおられるときには先生方の力で子どもたちの安全を守ってください。そして保護者に子どもたちを引き渡した後に我々は避難者として学校へ乗り込みます。そういう手順ですから、先生方は傍観するのではなくて、地域に委ねるのではなくて、自分たちで子どもたちを守ってください。」ということを申し上げました。そのように先生方の認識も違っていたんですね。ちょっと我々もびっくりしたのですが、そういうことが今起きてるということを皆さんちょっと知っていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

○森口委員

ありがとうございました。それでは新井様より一言お願いします。

○新井様

新井でございます。私たちの生活の中で一番関わってくる4月1日からの自転車の交通ルールのことですが、マナーなどを守るのが一番だとは思いますが、道路事情もきちんとできていないのに、ルールばかりがどんどん改正されていって、自転車が便利ではなくなる。あと、この場で何度も発言させていただいているんですが、生活がかかっていることはわかりますが、空き缶を収集されている方の自転車の積載量も本当に超えておりますし、どんどん形態が進化して横にも縦にも伸びていくんですね。小学校の見守りとかをしているのですが、登校時に本当に危ない場面をたくさん見ているので、これは私たちが注意するよりも、警察の方に見回ってもらって、注意を促していただきたいなと思っています。また、自転車の形態も変わってきていて、電動アシスト自転車なのかバイクなのか本当にわからない。自転車というよりもバイクが本当にもういろいろなところを駆け抜けています。これを今決まっている交通ルールで、取り締まっていけるのかっていうのは本当に不安に思っています。

ちょっと話は変わりますが、子どもたちがいろんなところで関わっていくところで、生野区の高校、大阪偕星学園高等学校や金光藤蔭高等学校でボランティア部というのを作られていて、みんないろいろな地域のことに協力したいとのことでお声をかけていただいております。生野区にある高校が協力してくれるということで大きな力になると思うので、また学校の方に問い合わせさせていただいて、いろいろな部分でご協力していただいてもいいのかなと思います。以上です。

○森口委員

ありがとうございました。それでは伊藤様お願いします。

○伊藤様

東中川地域の伊藤でございます。先ほどから外国人の方の問題が出ておりました。東中川は区内でも外国人の方の割合が高い地域だと思っております。その方々とどのようにコミュニケーションを取っていったらいいのだろうかというのは我々の地域でも課題であると同時に、生野区での課題だっているのを今日、皆さま方の意見を聞いて、理解したつもりです。これからは、外国の方だから地域のイベントとかに声をかけないということではなく、担い手として考えていって進めていくという方向が非常に大切ではないかなと思っております。

今後とも、皆さま方の活発な意見を通じて、この生野区がどなたでも住みやすいまちになりますことを祈っております。ありがとうございます。

○森口委員

ありがとうございました。それでは三木様お願いします。

○三木様

鶴橋地域の三木でございます。現在、特区民泊は大阪が日本全体の約90%を占めているということで伺っております。実は一昨日私どもの鶴橋地域に、特区民泊の申請をしたいので事前に話し合いをしたいということで、中国籍の社長さんがスタッフを2名連れて来られました。民泊をするにあたって、町会でいろいろな要望があればお伺いしたいと。こういったことは極めて稀なことでして、今まで知らない間に民泊をされているという状況だったんですけども、今回は事前に話し合いをしまして、ゴミ出しや騒音などについて1時間ぐらいお話しして、町会の要望を聞いていただきました。さらに、町会に加盟していただくこともご了解いただきました。以上です。

○森口委員

ありがとうございました。それでは船方様お願いします。

○船方様

北鶴橋の船方です。今日の区政会議で最後に報告のあったジュニア災害リーダーとの意見交換会がとてもいい取組だなと思えました。それが区政会議の中から、出前区政会議のようにして若い子たちの意見を取り入れるのはどうかということで1個実現した形なのかなと思って、とてもいいことだと思えました。今回ちょっと2人しか参加がないのですが、ジュニア災害リーダーだけじゃなくて、各学校とかに区役所の方から赴いて出前区政会議をするというのもあれば、もっと発展していくんじゃないかなと思えました。以上です。

○森口委員

ありがとうございました。それでは北口様お願いします。

○北口様

巽東地区の北口です。私も以前、くらしの安全・安心部会に所属しておりました。

たので、災害時のことについて。先ほど多田会長がおっしゃいましたように、今まで地域だけの対応でしたけれども、今はもう外国人対応を除いては考えられません。来月も災害訓練がありますが、そのときにやはり外国人の方の対応も考えて実施していただきたいと思います。以上です。

○森口委員

ありがとうございました。

それでは「その他」ということで、事務局から連絡事項がありましたらお願いいたします。

○森区政推進担当課長

それでは事務局からのご案内の前に、先ほど山田正和市議員がおいでになりましたのでご紹介させていただきます。

○山田議員

すいません、市議員の山田でございます。こんばんは。遅れて駆けつけが最後になってしまいました。新しいメンバーでの区政会議ということで、今後ともどうぞよろしく申し上げます。

○森区政推進担当課長

ありがとうございました。

それでは事務局の方から一点お知らせをさせていただきたいと思います。

令和8年度の区政会議の開催の予定ですが、来年度が生野区将来ビジョンの改定の年となります。その都合で、上半期に第1回各部会及び全体会、年末頃に第2回各部会及び全体会。そして年度末頃に第3回全体会を開催する予定でございます。詳細な日時等につきましては改めてお知らせさせていただきます。

事務局からのお知らせは以上になります。

○森口委員

それでは最後に筋原区長から一言申し上げます。

○筋原生野区長

皆さま、本日も長時間にわたり貴重なご意見を賜りましてありがとうございました。心よりお礼申し上げます。

お話でもありましたように、グローバルタウンプロジェクトをはじめ、現在進行形でスーパーシティ特区も踏まえて進んでいこうとしている事業がたくさんございます。そういう中で、私自身の区長の任期が3月末で終了するというところで、私は公募区長ですので、大阪市の方からは、もう一度公募区長を受けないのかということも尋ねられたんですけども、大阪市のルールでは同じ区の区長は2回できないので、もし合格しても他の区の区長になってしまいますので、私としては今進行中のいくつものプロジェクトがありますので、それを何とか完遂させたいという思いが非常にありますので、公募区長を受けないという選択を

いたしました。

4月からは、一民間人の立場になるわけですがけれども、生野区で事務所を探して、自分で法人を立ち上げて、今まで公民連携の公の立場でしたけれども、民間の立場から引き続きこの進行中のプロジェクトを完遂できるまで頑張っていきたいと思っております。

4年間、生野区で実際に御幸森に住んで区長をさせていただきまして、本当に生野区のことを好きになりすぎました。ですので、これからまた3月末まで「遊んでも暮らしても働いても面白い」という生野区のまちづくりに全力を尽くしますとともに、4月以降も生野区で頑張っていりますので、どうぞ引き続きご指導よろしくお願い申し上げます。お世話になりました。本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。

○森口委員

ありがとうございました。

本日は委員の皆さまから非常に活発な意見交換がなされたと思います。

区政会議は、我々区政会議委員が区民を代表して、区政に参加する大切な場です。委員の方々につきましては地域の皆さんに本日の会議の様子をお伝えしていただければと思います。

それではこれにて本日の区政会議全体会を終了いたします。委員の皆さま大変お疲れ様でした。ありがとうございました。